

建設産業委員会会議録

令和3年12月2日（木）

午前9時00分 開会

○沢田清委員長

ただいまから、建設産業委員会を開会します。協議題1 ゼロカーボンシティはんだビジョンについてを行います。当局よりご説明があります。

○出口久浩市民経済部長

今回、ゼロカーボン半田ビジョンを作成するにあたり、12月15日の全員協議会で、パブリックコメントを取るうえで事前に報告したいと考えています。その前に建設産業委員会の皆様には、素案についてご説明させていただき、ご意見があれば、反映した形で15日の全員協議会で報告させていただき、本日このような場を設けていただきました。今後のスケジュールについてですが、本日ここで説明をさせていただいたのち、12月6日に庁内のプロジェクト会議で最終的なまとめを行い、12月13日にゼロカーボンシティ半田ビジョン策定委員会で最終的な承認を得て、14日の幹部会で承認を得たのち、15日の全員協議会でご説明させていただき、16日から1月4日まで、パブリックコメントを実施いたします。そののち、その意見を反映して、1月上旬に庁内のプロジェクト会議と、ゼロカーボンシティ半田ビジョン策定委員会に諮ったのち、印刷して製本します。1月31日には終えるという流れで進んでおります。1月31日に終えるのは、9月の補正予算審査時にもご説明させていただいた通り、国の補助金を利用している都合上、1月末までに支払いまでを済ませる必要があるという関係で、今回タイトな日程で進んでおります。今回は、素案ということで中間報告として説明させていただきます。報告については、環境課長から説明させます。

○門田和博環境課長

【ゼロカーボンシティ半田ビジョンについて説明】

○沢田清委員長

説明は終わりました。ご質疑ありませんか。

○中村和也委員

24ページのシナリオ編の年表にビオぐるファクトリーHANDAの稼働とありますが、半田バイオマス発電所等は載せないのでしょうか。

○門田和博環境課長

この表に記載しているのは、半田市が関わった取り組みについてでして、ビオぐるファクトリー HANDA は、補助金やバイオマス都市構想の中に位置づけられているものですので、ここに記載しています。記載のない施設については、民間の事業所の方が行ったということで、記載していません。

○中村和也委員

半田市が関わったかどうか、ポイントだということがわかりました。ほかの業者の方も思いがあってやられていることなので、うちだけ載っていないということのないよう、理由だけしっかりしていただければよいと思います。

○新美保博委員

48 ページの CO2 削減のなりゆきのシナリオを見ると 2013 年度比で 15 パーセント、2050 年には 17 パーセント減少すると想定しているとされています。何もしないとこの程度しか下がらないということだと思いますが、そこで取り組みを行った場合のシナリオを見ると 2030 年には 45 パーセントの削減、2050 年には、実質 0 となっています。実質 0 を目指すということは、どういうことですか。

○出口久浩市民経済部長

50 ページの下の表を見ていただくと 2050 年にエネルギー消費量が 6,869TJ で、再エネ導入量が 4318TJ でこれを相殺すると、まだ 2500 ほど残るんですが、足りない部分は、水素や合成燃料などのカーボンニュートラル燃料への変換などで、その部分は賄えるだろうということで、最終的に 0 になるだろうという試算です。

○新美保博委員

このビジョンには、何をやればよいか書かれていません。産業部門が 64 パーセントの比率を占めるのであれば、産業部門には手を打っていく必要がありますが、家庭部門は 15 パーセントということに対して、半田市は市民の方にどれだけの協力をもらうかに関わるのが重要であるのに、そのことが一言も書かれていません。今は太陽光発電を付けても赤字になると推測していますが、市民はそれでもやってくれるのでしょうか。パブコメでどんな意見が書けるのでしょうか。

○出口久浩市民経済部長

何をやらたいのか国の方で見えていない中で、ビジョンを作れということで、国の方から降りてきている状況です。そのなかで、市として何をすべきかということがビジョンにはわかりやすく示されています。具体例でいうと、太陽光パネルの設置や食品ロスの低減、家庭でのコンポストの設置、3R など普段の暮らしの中での取り組みがゼロカーボンにつながっていくということが、示されています。30 ページを見ていただくと、ZEH といった断熱性の高い住宅に切り替えていただくとか、その工場や事業所版を ZEB といいます。こういったことにより、省エネにつながっていくことが示されています。また、移動については、出かけるときは徒歩や自転車、公共交通機関を使うことで省エネになるとうたっています。こういったことを進めることで、最終的にはゼロを目指していく目安となるものを示すものです。

○新美保博委員

ビジョンがあって何の意味があるのでしょうか。問題はわかっているから、ここにわざわざ記載される必要はありません。太陽光にしても、つけることで損することが分かっている、行政の補助もなく、普及していくとは到底思えません。

○中川健一委員

29 ページに書かれているようなことは、大なり小なりもうすでに市民はやっていると思います。だから、条例を作って強制的に市民に取り組みさせるなどすべきだと思います。本当にやるなら、里山や緑地を守る補助金を作るとか、そういう具体的な政策まで落とし込んであれば、ビジョンが必要かは疑問ですが、ゼロカーボンに向けた具体的な税金を使った施策展開が見えてきますが、絵だけ描いて、市が税金を使って行う施策の具体的な提示が全くないので、絵に描いた餅であるといわれてしまうのではないのでしょうか。

○出口久浩市民経済部長

想定される行政の取り組みとして、公共施設の再生可能エネルギーの導入、可能であれば公共施設の屋根の太陽光の増設や、環境配慮住宅の購入助成などを行政としてはやっていきたいと考えています。行政がやる部分については公費を伴うものなので、ビジョンに反映しづらい部分ですが、それでは、市民に示しがつかないので、今やっていないことも含めて、極力行政でできることを記載しています。市民の方がいろんな取り組みを既にやっていただいているということは重々承知ですが、それがゼロカーボンにつながることをあえて再度啓発することで、認識していただくことが大事であると考えています。そういったことも含めて、ビジョンの中で提言をしていきたいと考えています。

○中川健一委員

市民に対しては、啓発という上から目線ではいけないと思いますので、役所側がもっと取り組みを強化する必要があると思います。

○新美保博委員

緑のカーテンや生ごみ乾燥機を職員がどの程度取り組んでいるのか調べてください。また、できなかった場合の責任の所在も明記していただければ、少しは意味があるのかなと思います。

○水野直美委員

経済を回していこうとするときに、今ある服を長く着ようということは、要は買うなということになると思いますが、そうなってきたときに、困る人が出てくるので、文言や、内容を精査していただければと思います。また、カテゴリについても正しいのか疑問であるので精査していただきたいです。

○新美保博委員

今までパブコメの前に議会の意見を聞いてくれたことはないので、画期的な会議であったと考えています。だから、もう少ししっかりした内容でないと、パブコメで何も書けないといっています。これでは内容が足りないと思います。

○沢田清委員長

本日の会議の内容を取り入れて、ぜひビジョンに生かしていただきたいと思います。以上で建設産業委員会を閉会します。

閉会 午前9時55分